

みずほ産業調査 Vol. 78 「日本産業が直面する制約を乗り越えるために
～人手不足とエネルギー制約を成長につなげる打ち手～」

工作機械

～事業環境変化に対応するためのアライアンスへの
着意を期待

みずほ銀行

産業調査部

2025年5月30日

ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO

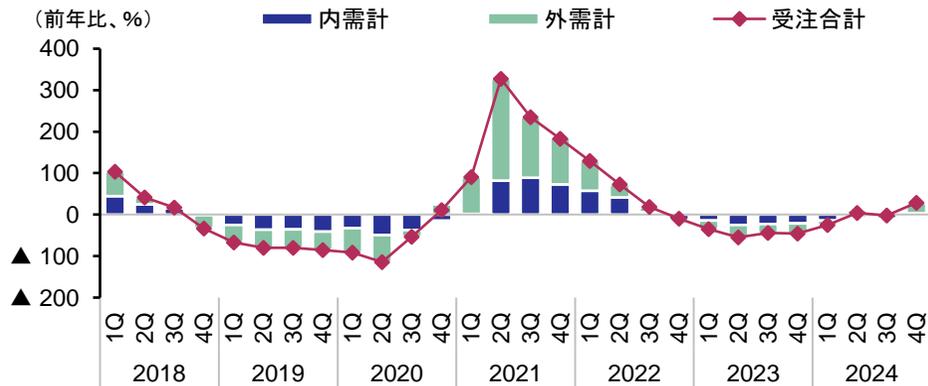
サマリー

- 工作機械メーカーでは、現状人材獲得に陰りこそ見えるものの、事業運営上人手不足が支障をきたすような状況にはなく、余力のあるメーカーでは生産性向上の文脈において自動化や効率化を意識的に進めている
- 工作機械業界では長くM&Aや業務提携、メーカー間の交流の場が少なく、多様な工作機械メーカーがそれぞれ独自のやり方でビジネスを推進しているが、業界全体で見ると非効率な動きが多い
- また、人手不足を含む事業環境変化への対応においては、従来のやり方が通用しないケースも増加してきており、様々な情報交換による「気づき」の重要性が増している
- 情報を積極的に取りに行く姿勢において、現経営層の意識改革は喫緊の課題であるが、若年世代の交流は業界の閉鎖的な雰囲気を変えるきっかけとなる可能性あり。中長期的にも業界の活性化に有効と思料
- 一方で、ユーザー業界における人手不足については、国内外いずれの地域・業界においても進んでおり、今後も製造現場の自動化はさらなる進展が見込まれる
- ユーザーの製造現場の自動化・稼働時間の長期化が進むにつれて、日本メーカーの強みである機械の耐久性やサービス対応力の高さは、ユーザーへの更なる価値提供へつながり、日本メーカーの優位性の維持・拡大に貢献する
- 実際にサービスエンジニア育成に注力するメーカーは増加中。サービス収益の拡大は受注の増減の大きい業界において、安定収入につながるため、各メーカーの経営にとっての意義も大きい
- ただし、工作機械の海外需要が拡大する中において、小規模メーカーが全ユーザーを対象としたアフターサービス網を形成・維持することは負担が大きい
- そこで、メーカー経営者は、様々な情報交換の場に参加し、経営判断の材料とすることに加え、サービスエンジニア網の共同運営などのアライアンスを組むための「気の合う(社風や価値観の近い)」メーカーを積極的に見つける意識も肝要となる

工作機械が関連する人手不足分野は業界内部とユーザー業界の2分野に分けられる

- 工作機械が関連する人手不足課題は、大きく、業界内部の課題とユーザー業界における課題の2分野が存在
 - 業界内部においては従来より数年に一度の人手不足を経験し、対応ノウハウを蓄積。局所的には顕在化
 - ユーザー業界では国内外それぞれで人手不足が顕在化しているものの、自動化対応の進捗には濃淡あり
 - 国内中小ユーザーにおいては標準化が困難なうえに投資余力も小さいため自動化の進捗が難航
 - 海外においては人件費上昇等により全体的に自動化ニーズが高まりつつある状況

日本メーカーの受注額の推移(前年同期比の増減の割合の推移)



- ✓ 「feast or famine(饗宴か飢餓か)」といわれるほど需要の振幅が激しい業界
- ✓ 従来より数年に一度、受注の増加による人手不足の状態を経験しており、人手不足対応については一定のノウハウを保有

(出所)日本工作機械工業会開示資料より、みずほ銀行産業調査部作成

局所的に人員確保が難航するケースがやや増加

- ✓ 直近では近隣で大手企業や外資系企業が好待遇で人員募集を増やし、人員確保が難航するケースが散見される
- ✓ メーカー内では絆の強い業界であり、繁忙期にはOBや役員までが総出で製造・出荷作業を遂行して乗り切るケースも

(出所)各種公開情報より、みずほ銀行産業調査部作成

ユーザー業界における人手不足と自動化の現状

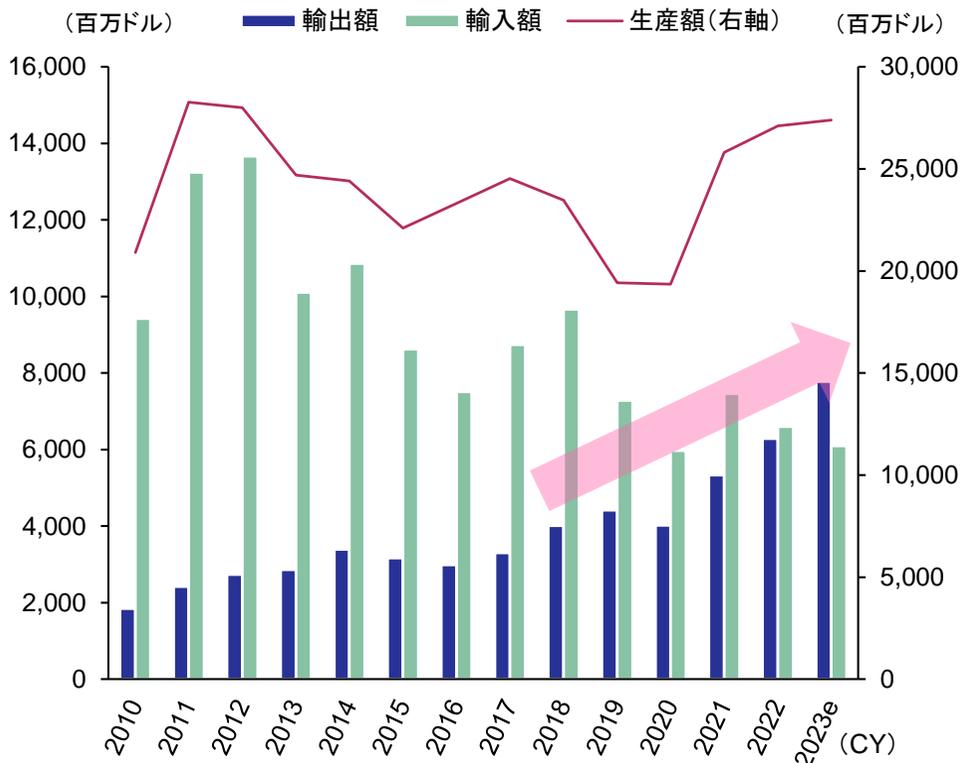
国内	
大手ユーザー	中小ユーザー
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 投資資金があり、自動化メリットが大きいため、従来から自動化が進展するも、人手不足は顕在化しつつある 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 多様性が大きいいため、標準化が困難なうえに投資余力が些少。自動化は難航 ✓ 従業員の高齢化が進み、人手不足が顕在化しつつある
海外	
欧州	米国
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 従来から人手不足、人件費上昇が課題であり、自動化への意欲が旺盛 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コロナ禍終息後の従業員の戻りが遅く、一時期は人手不足が課題に ✓ 欧州には遅れるものの、近年自動化投資が進む
中国	新興国
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人の作業よりも機械の作業を信頼する傾向 ✓ 日本の工作機械のユーザーにおいては比較的自動化が進む 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 東南アジア:人の作業を前提とした製造設備が多いが、人件費上昇中 ✓ インド:ユーザー全体で人材が不足しており自動化ニーズが高い

(出所)各種公開情報より、みずほ銀行産業調査部作成

(参考)長期的には中国メーカーの台頭の可能性があり、価格競争力強化などへの着意が重要

- 中国では国を挙げて技術的キャッチアップを目指し、近年では中国メーカーは着実に技術レベルが向上。2018年までは世界の工作機械輸入超過国であったものの、2023年にロシア向けが急増して輸出超過国へ変化
- 中期的には米中対立を起点に、経済圏の異なる中国との競争は抑えられるが、長期的にはリスク要因
- 中国メーカーは日本のFA業界とは異なる軸での付加価値提供に取り組む傾向があり、特に中長期的に工作機械需要が増加すると見込まれる新興国ユーザーの新規導入においては低価格、ライン提供等の強みを発揮する可能性

中国における工作機械(切削+成形)の輸出入・生産額の推移



(出所)日本工作機械工業会「工作機械統計要覧」より、みずほ銀行産業調査部作成

日本と中国の工作機械の比較

	日本	中国
精度出しの方法	組立熟練工の手作業を重視	制御装置によるデジタル補正を重視
耐久年数	13~20年程度	数年程度で精度が出にくくなる
価格	高位機種が多く比較的高価	安価
提供形式	現状では機械単品での納入が主流	ラインビルダーと組み、ユーザーへはラインで提供

高位機種における技術的優位性が保たれたとしても、グローバル市場の majority を中国メーカーに浸食された場合、日本の工作機械業界の衰退につながる可能性あり

- ✓ 中国は、国家が主導してスマートファクトリー技術の発展計画を策定・実行しており、データ活用による製造現場全体のプロデュースに重点を置く
- ✓ 日本のFA業界とは異なる軸での付加価値提供、ユーザー獲得に取り組む傾向

(出所)各種公開情報より、みずほ銀行産業調査部作成

業界内部での生産性向上アイデアの交換が有効もメーカー同士の交流が些少

- 受注が集中する時期が周期的に発生する業界であり、生産効率の向上は人手不足対応のみならず、販売機会逸失回避による売上拡大や利益率向上のための攻めの一手
- 自動化投資や工場の配置の効率化、熟練工の活用方法の見直しなど積極的な投資を行うメーカーがある一方、投資余力やアイデアに乏しいメーカーが取り残される懸念
- 生産面において多様性が高いことにより、メーカー同士の連携や交流の機会が少ない業界であり、全体として非効率な動きが多いことが課題

業界内の目立った動き

- ✓ もともと熟練工の技量が非常に重要とされる産業であり、昔から各社それぞれの熟練工育成ノウハウを蓄積
- ✓ また、メーカーは人手不足対応のノウハウを一定程度保有しているため、現状では大きなトラブルは回避

一方で、人手不足解消につながる取り組みも始まる

メーカーの取り組み

自動化設備採用や、人の動線を考慮した生産現場の配置見直し等で生産性を向上

オークマは数年前より工場の再構築により製造一貫体制を推進

中村留精密工業は2023年10月、新工場「MAGI」を稼働開始

DMG森精機は2024年4月、伊賀事務所にて新工場稼働開始

松浦機械製作所は2025年1月、武生工場を拡張

政府のサポート

人手不足への対応措置である、外国人の特定技能在留資格制度の対象業種化

現状では利用メーカー数は些少であるものの、少しずつ拡大中

制度上の使いにくさを改善し、利用拡大を目指す意向

業界における外国人材受け入れの壁

- ✓ 単純作業が少なく、育成が長期化
- ✓ 技術流出対策が困難

メーカーごとに人手不足対策を推進

各メーカーのオリジナル要素が強く、成功事例の共有が進んでいない

製造工程効率化の取り組み

部品製造工程における工程集約機や自動化周辺技術の導入

製造現場の配置換えやスペース拡張による生産効率の向上

一部工程のモジュール化による熟練工工程の生産性向上

基幹システム刷新により生産能力増強

人材確保の取り組み

熟練工育成工程を現在の若者向けにアレンジ

人材確保を主眼とした企業買収や業務提携を推進

ブランディング戦略を立てて、製造業の魅力を社内外へ発信

処遇の改善、食堂完備や働きやすさ改善の推進

課題

- ✓ 製品の多様性が大きく生産面での直接の協業難易度は高いものの、効率化アイデアなどの交換の場は有効
- ✓ 小規模メーカーが多い業界において、連携が少なく非効率な動きが多い

(注) 本稿では、単純工と熟練工：習得に6～10年程度の期間が必要な難易度の高い組み立てを行う技術者を熟練工、それ以外を単純工とする
 (出所) 両図ともに、各種公開情報より、みずほ銀行産業調査部作成

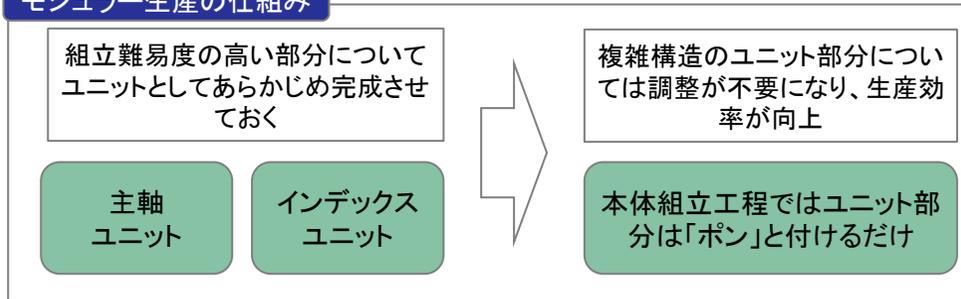
製造部門におけるモジュラー生産は中期的な業績改善と長期的な事業継続性のいずれへも有効

- 各社でそれぞれの取り組みが進む中、一部の日本メーカーで注目されているモジュラー生産は、難易度は高いものの設計アイデア次第で質を落とさずに生産効率を大きく上げる可能性
- また長期的に、状況に応じてユニット輸出によるミドルエンド機現地生産体制構築などビジネス拡大への布石ともなりうる

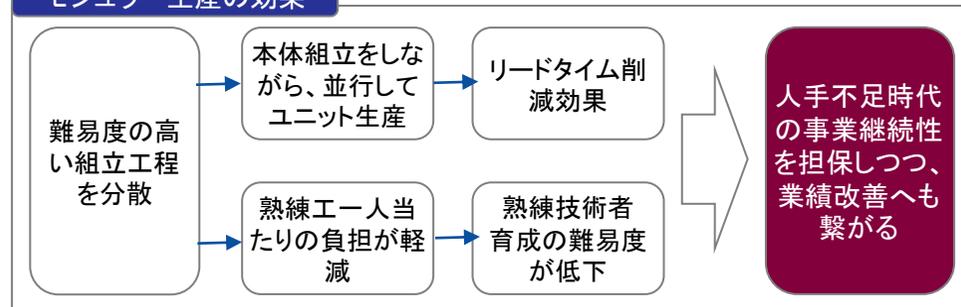
中村留精密工業の事例

- ✓ 当社は20年ほど前よりモジュラー生産を導入
- ✓ 2023年10月から稼働する工場では従来のモジュラー生産をさらに進展
- ✓ 受注から出荷までのリードタイムを3分の1へ(5カ月⇒1カ月半)

モジュラー生産の仕組み



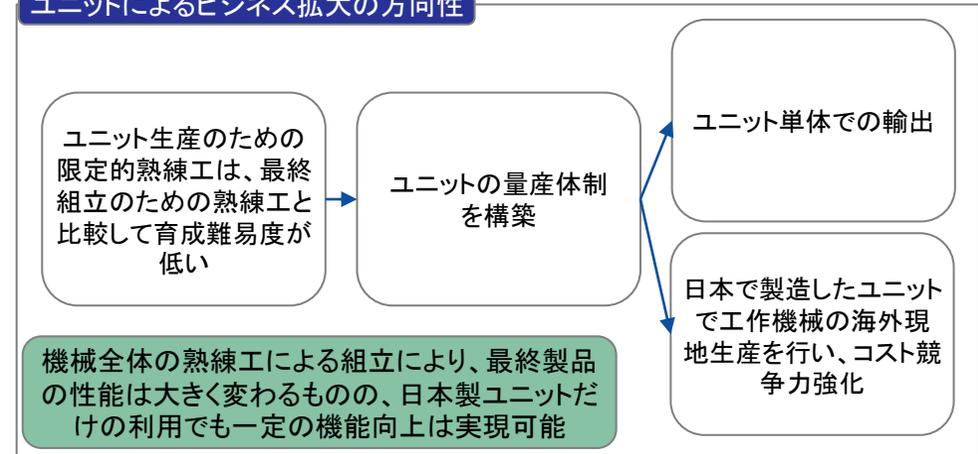
モジュラー生産の効果



ユニット化により将来のビジネス機会への広がりも

- ✓ 中国メーカーの技術力が向上する中、中期的には米中対立を起点に、中国製工作機械の輸出は拡大しにくい環境
- ✓ 長期的には中国製工作機械との価格競争力が必要になる場面も想定される

ユニットによるビジネス拡大の方向性



- ✓ ハイエンド機のみでは市場規模不足で産業として縮小する懸念
- ✓ すべて日本で組立を完成させるハイエンド機と、性能面で重要な役割を担うユニット部分のみ日本製を使うミドルエンド機の2つのラインナップで幅広い顧客ニーズに対応が可能(中国メーカーの長期的な台頭への対策を意識)

(出所)両図ともに、各種公開情報より、みずほ銀行産業調査部作成

人手不足を含め、環境変化が加速。適切な経営判断のために多様な情報で健全な気づきを

- 工作機械業界は長くM&Aや業務提携、メーカー間の交流の場が少なく、多様な工作機械メーカーがそれぞれ独自のやり方でビジネスを推進。一方、人手不足を含む環境変化への対応においては様々な情報交換による「気づき」の重要性が増加
- 社内での建設的な議論の場を増やすとともに、柔軟性の高い若年技術者を中心にメーカー間の交流を行うことで、業界全体の活性化や従業員ロイヤリティ向上を企図。中長期的にも人材確保や生産性向上の効果を期待

業界環境変化が加速しており、今後は様々な経営のかじ取りが必要な場面も

<p>工作機械とは</p> <p>主に金属を削って部品を作る機械</p>	<p>加工対象は</p> <p>船舶、航空機部品から電子部品まで多種多様</p>	<p>市場規模は</p> <p>日本工作機械工業会(注)の2024年の受注額 1兆5千億円</p>	<p>メーカー数は</p> <p>日本工作機械工業会の2024年4月時点の会員数 111社</p>
---	---	--	--

- ✓ 製造機種が多種多様なため横のつながりは少ない
- ✓ 特定のユーザーのための製品改良に注力する、技術力を核とした小規模メーカーが多数存在

業界を取り巻く環境の変化が加速

国内の製造業全体の縮小	大口ユーザーである自動車業界の変化	国内外のユーザー全体のニーズ変化	業界内外の人手不足深刻化
-------------	-------------------	------------------	--------------

- ✓ 目の前のユーザーのみならず、製造業全体の方向性の変化など、広い視野での経営判断が必要な時代へ
- ✓ 人手不足の影響を含めて不確実性の高い時代であるため、多様なアイデアを出し合い、建設的な議論をすることが重要となる

(注) 日本工作機械工業会会員による工作機械生産額は日本国内生産額の90%以上
(出所) 日本工作機械工業会公開情報より、みずほ銀行産業調査部作成

若い世代の技術者の勉強会などを対面で行うことでメーカー間の交流を

現経営者の意識改革は喫緊の課題

- ✓ 環境変化に柔軟に対応するため、経営者が視野を広げる必要
- ✓ 多様な視点からの意見による気づきの重要性が上がる

若年世代の交流は比較的抵抗が少ない

- ✓ 業界の弱点のひとつは、メーカー同士のつながり、情報交換が少ないこと
- ✓ 柔軟性の高い若年世代の対面での交流の場を意識的に設けることで、一定のコミュニティを形成することも中長期的に有効

交流による情報共有が経営の参考に

- ✓ 工作機械の種類は多種多様であり、個社ごとに課題や得手不得手が異なるものの、若年世代を中心に情報交換の権限を与えを交流を積極的に実施することで、生産工程効率化のエッセンスや、機械商社との付き合い方など何らかの気づきが発生

副次的な効果として

社員一人一人の経営参画意識の向上により、やりがいや満足度が向上。結果的に従業員のロイヤリティ向上によって離職率低減につながり、人手確保や生産性の向上を通じて利益への貢献も期待

(出所) みずほ銀行産業調査部作成

大規模な完成品組立工場では自動化が進むものの、中小規模の部品工場では進捗が遅れる

- メーカーはユーザーの単純工不足に対して、ワークの脱着を自動化、または回数を減らす方向で提案中。次の自動化はワーク脱着前後の搬送や測定 of 自動化へ広がるものと見込む
- ユーザーの熟練工不足に対してはデジタルを活用して様々な熟練工のスキルを代替するソフトウェアを開発し、積極的に提案中

近年の工作機械関連展示会ではロボットを活用する例が多数出展

ロボットの機能は工作機械へのワーク(削る対象物)の脱着であり、人手不足対応の中心的役割

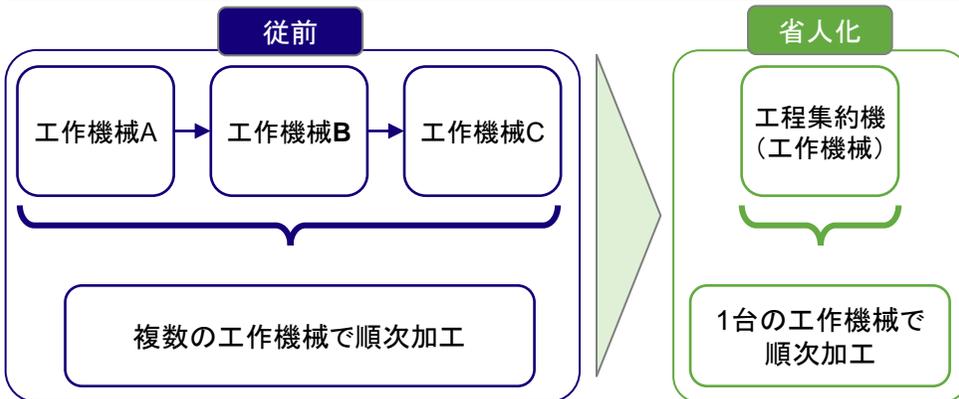
加工機横に配置する
協働ロボット

ビルトインロボット
(アームタイプ)

AWC
(自動ワーク交換装置)

ピックアップローダー
(ガントリーローダーを応用した
ワーク脱着装置)

ワークの脱着回数を減らす工程集約機^(注)を積極的に提案



(注) (割り出し)5軸加工機や複合加工機を指す
(出所) 両図ともに、各種公開情報より、みずほ銀行産業調査部作成

「ワーク脱着」の次の自動化はその先の搬送(AGV)や測定機器へ

生産現場の自動化は標準化がしやすい部分から進む

AGV
(無人搬送ロボット)

机上精密測定
(測定の自動化)

メーカーの提案商品は充実しつつあるものの
特に国内の中小部品ユーザーへの広がりには
進んでいない

自動化の本質はデジタル化。中堅中小ユーザーも含めた製造現場全体でのデジタルリテラシー底上げが自動化製品の普及へ必要

熟練工不足についてはデジタル活用により対応機能を積極的に開発中

日本メーカーはデジタルを活用したソフトウェア開発に熱心なところが多い

予知保全
サービス

加工プログラム
自動作成機能

見積り業務の
自動化機能

セットアップガイド
(段取り指示書)

ワークのビビリ^(注)
抑制機能

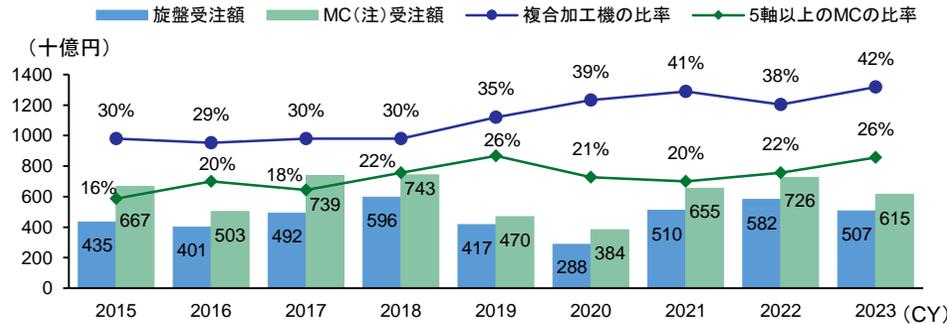
...

(注) 加工中に工具やワークが振動する現象。精度や仕上がりを悪化させる原因となる
(出所) 両図ともに、各種公開情報より、みずほ銀行産業調査部作成

工程集約機は加工精度の上昇などの強みも有し有望なるも、サービスオペレーション負担が増加

- ここ数年で先進国を中心に普及が広がる工程集約機は自動製造ラインそのものであり、省人化に資する。さらに、ワンチャックで複数工程を進めるため累積誤差を圧縮する効果があり、高品質製品製造へも有効
- 一方で構造の複雑性および稼働時間の増加により必然的に不具合発生率は上がり、メーカーによるアフターサービスのオペレーション負担は増加

工程集約機の受注金額推移グラフ



(注) マシニングセンター
 (出所) 日本工作機械工業会「工作機械統計要覧」より、みずほ銀行産業調査部作成

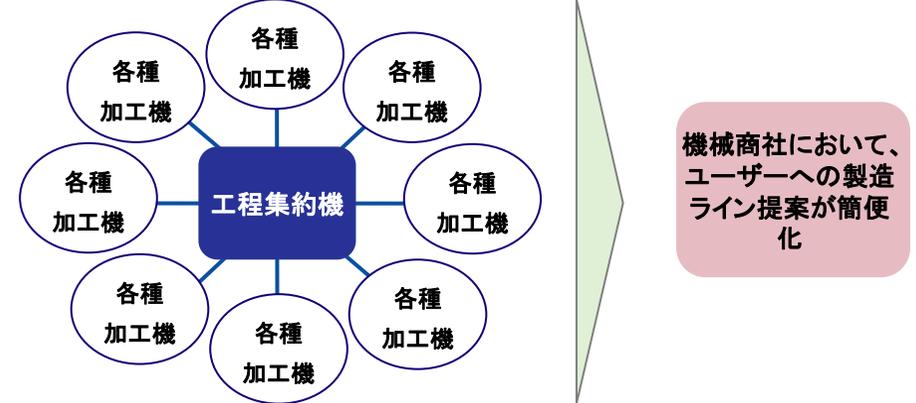
工程集約機の強みと活用の広がり

強み	活用の広がり
従来の自動製造ラインと同等の効果	日本メーカーが従来不得手としてきたライン提案の難易度が低下
ワンチャックで複数工程を行うため累積誤差が圧縮	省人化のみならず、加工精度の大幅な上昇
複数の加工が1台でできるため空間の有効活用が可能	BEVへの対応で製品種類が増えた自動車メーカーから小規模で自動化が難しかった部品メーカーまで、省スペース化のメリットは大きい

(出所) みずほ銀行産業調査部作成

多様なユーザーの製造ライン提案ニーズにワンストップで対応

工程集約機の製造は大手総合メーカーと一部の中堅メーカーに限られているものの、工程集約機と、それ以外の多様な加工機を組み合わせることにより、従前よりも簡便に、多様なユーザーニーズにこたえることができる



日本メーカーの工程集約機ビジネスにおける課題

販売面	複数の工作機械の加工が1台で集約されるため、全体としては販売台数が減少する可能性
サービス面	工程集約機は構造が複雑であり、また各種機械の稼働が増加することにより、メンテナンスの重要性は高まる。メーカーにおけるアフターサービスのオペレーション負担が増す

(出所) 両図ともに、みずほ銀行産業調査部作成

ユーザーの生産性向上により、日本メーカーが得意とする修理復旧サービスの重要性が高まる

- ユーザーの製造現場の省人化、高効率化、稼働時間の長期化が進むにつれて、日本の工作機械メーカーの強みである機械の耐久性やサービス対応力の高さは、ユーザーにとって現状よりもさらに大きな価値へ
- サービスエンジニア育成に注力するメーカーが増加中。受注の増減の大きい業界において、安定収入につながるサービス収益の拡大はメーカーにとっての意義も大きい

日本の工作機械メーカーの従来からの強み

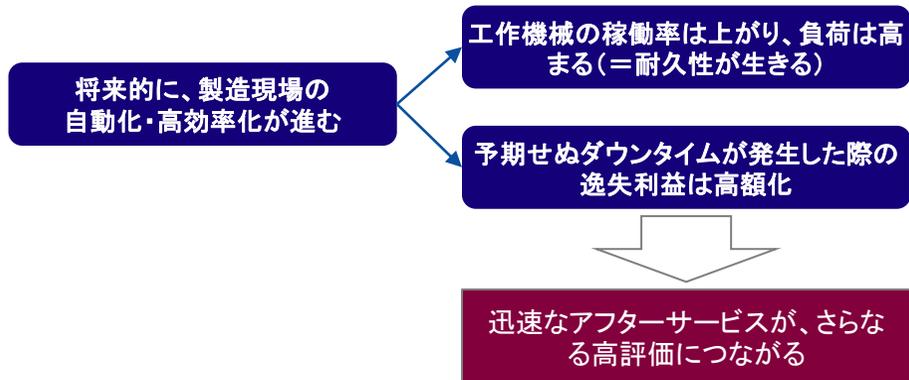
耐久性の高い機械の製造

日本メーカーが得意とする、熟練工による組立加工を行うことで、高い精度と耐久性を兼ね備えた工作機械を製造

差別化要素となるアフターサービス

- ✓ 工作機械は10年以上にわたって製造現場で使われるため、アフターサービスの質が問われる
- ✓ 生産現場におけるトラブル時の日本のメーカーの対応力の高さは抜群であり差別化要素

日本メーカーの強みは将来的にも差別化要素として生きる



(注) 自動製造ライン: 「自動化、省人化された製造ライン」の意。工作機械のみではなく周辺機器も組み合わせたターンキー納入を基本とする

(出所) 両図ともに、みずほ銀行産業調査部作成

サービスエンジニア育成に注力するメーカーが増加

- ✓ シチズンマシナリーは、2024年4月、軽井沢本社にサービス力強化のためのグローバルトレーニングセンターを新設
- ✓ アマダは、2024年11月、伊勢原本社内に社内エンジニアの教育施設を開設
- ✓ ファナックはサービス員のサービスレベル向上が最重要と考え、本社地区にあるファナックアカデミーにおいて、国内外のサービス員の技術教育を実施

アフターサービス収益化の取り組み例(DMG森精機)

- ✓ 受注のリピート率向上のためにサービスエンジニアを拡充
- ✓ 約2,000名のエンジニアを世界中の各地域に隙間なく配置(人員拡大中)
- ✓ 労働時間の1割程度はトレーニングにあて、人材育成強化
- ✓ サービス提供機種などスキルの可視化を行い処遇に反映

- ✓ サービス関連事業の2023年度の売上収益比が34%まで拡大
- ✓ 受注の増減の大きい業界において、業績安定化へも寄与

(出所) 両図ともに、各種公開情報より、みずほ銀行産業調査部作成

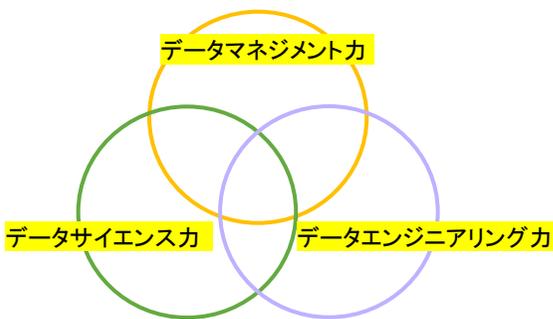
国内ユーザーにおける製造現場のデジタルリテラシー向上とサービス網の共同運営がカギ

- 自動化に向けて中小ユーザーが製造現場のデータ取得を学ぶことは、デジタルリテラシーを高める近道となりうる。メーカーも積極的に学び、社内外でデータ取得やその活用方法を伝播することで日本の製造業のDX機運を高めることが有効
- サービス網をグローバルで拡充することは、小規模メーカーにとっては負担が大きい。メーカー間でアライアンスを組むことで、ユーザーの利便性向上とメーカーの生産性向上が両立し、将来的なサービスエンジニア不足問題も軽減される可能性

製造現場のデータ活用を促す取り組み (Factory Scientist協会の事例)

ファクトリー・サイエンティスト協会のカリキュラムについて

- ✓ 「ファクトリー・サイエンティスト」とは: 比較的安価なWebサービス、デバイス、ツールを組み合わせ、データを軸に迅速な経営判断をサポートする人物像
- ✓ 中小規模の製造業において、現場の仕組みを一通り理解している入社3~9年目くらいの方がターゲット
- ✓ 市販の安価なセンサを使って、気軽に生産現場のデータ取得が可能に



ファクトリーサイエンティストの3つのスキル

ファクトリーサイエンティスト養成講座

全5回、約1カ月間の講座の受講で「自身の現場を題材にして、自らの困りごとの解決策を考え、つくる」ことを実践。受講後の情報交換の場も充実

- ✓ 工作機械業界内でも積極的に受講し、製造業全体のDX機運向上に貢献
- ✓ 自ら経験することで、ユーザーに刺さる製品開発や提案が可能に

データエンジニアリング力

IoTデバイスやセンサなどを駆使して安価に現場のデータを取得

データサイエンス力

収集したデータをクラウドにあげ、他のデータと組み合わせ、有益な情報を紡ぎ出す

データマネジメント力

得られた情報をもとに戦略を練り上げ、データを説得材料として経営者の意思決定に活用

サービスエンジニア網の共同運営を起点としたアライアンスの可能性

- ✓ 高い技術力を持ち、海外展開を希望しつつも、サービス網の拡充のための企業体力がなく断念しているメーカーが一定数あり
- ✓ 効率化のためのDX投資やサービス網構築のための初期投資負担は大きいものの、軌道に乗れば収益の柱とすることも可能

共同運営により

ユーザーの利便性向上

+

メーカーの生産性向上



将来的には

サービスエンジニアの労働条件、処遇の改善により、業界内部の人手不足改善へも寄与

実現すればメリットは大きいものの
超えるべき壁は高い

サービス網共同運営への壁

エンジニア育成
ノウハウ蓄積

DX共通基盤
の形成

サービス収益の
納得感ある分配

サービス網運営
ノウハウ蓄積

- ✓ アライアンス開始には、まず業界内での情報交換の場を増やすことでお互いの社風や価値観の理解を深めることが肝要
- ✓ 共同運営の壁を超えることは困難を伴うため、相手選びは慎重に行うとともに、一度開始した暁には簡単にはあきらめない粘り強さが勝敗を分ける

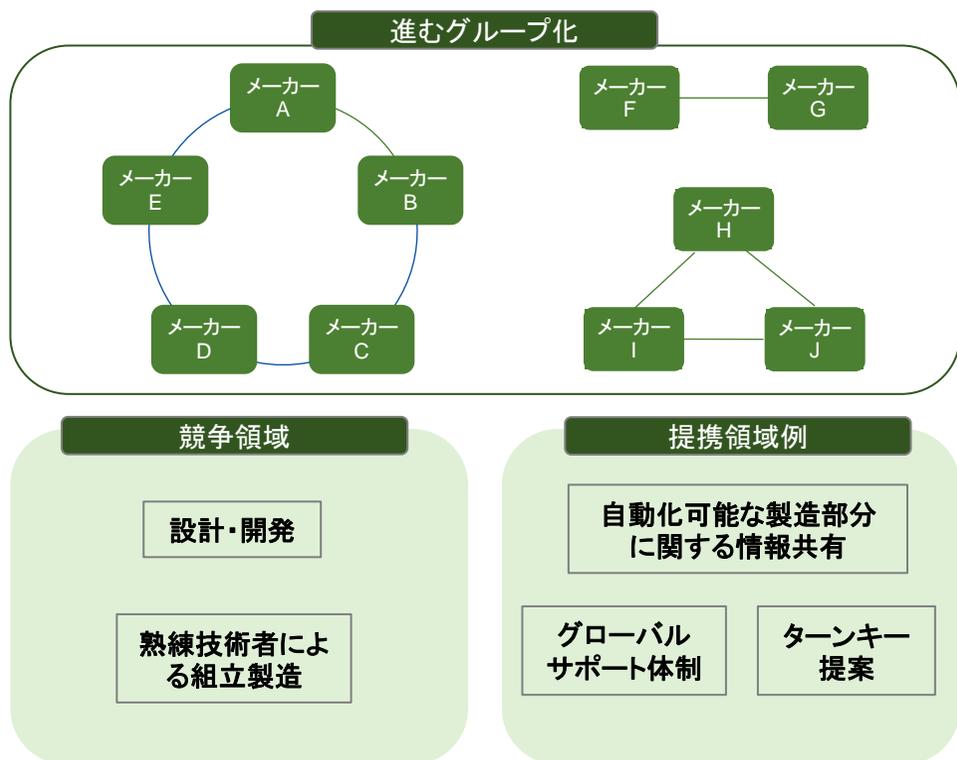
(出所) Factory Scientist協会HPより、みずほ銀行産業調査部作成

(出所) みずほ銀行産業調査部作成

(参考) 人手不足解消に向けた工作機械メーカーのグループ化進展と国内ユーザーのニーズ変化への対応

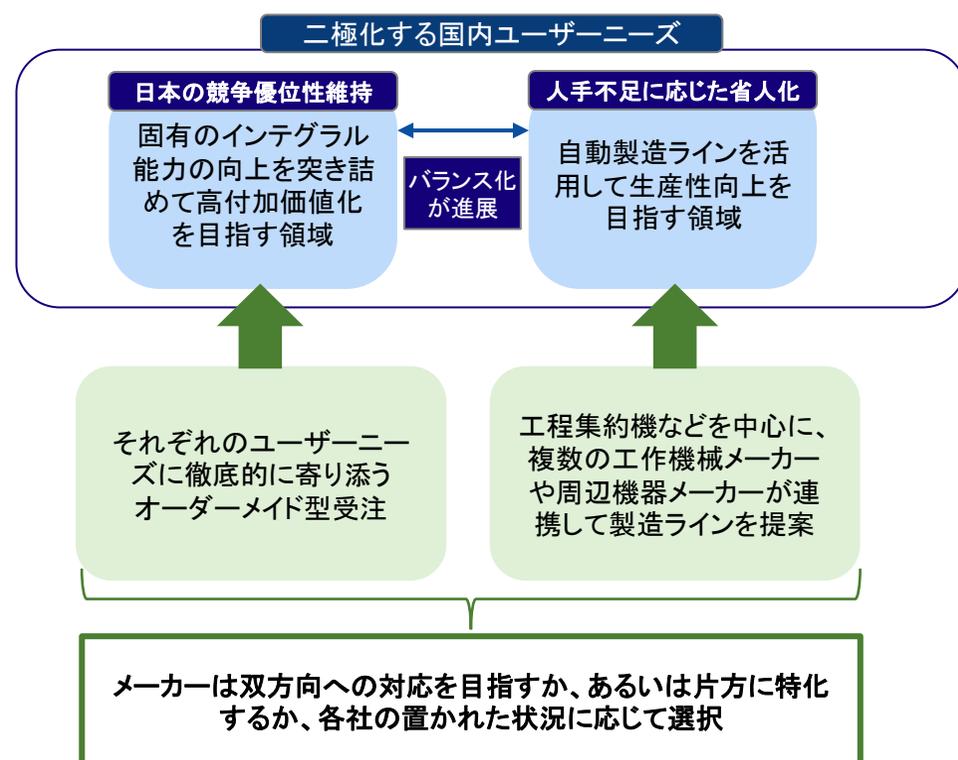
- 業界内部の人手不足やユーザー業界の人手不足によるニーズ変化に対応するため、工作機械業界においては中長期的に、メーカーのグループ化が進展。その中で、競争領域と協調領域の線引きが当事者同士の取り決めにより進捗すると推察
- 一方で、現状で自動化対応が遅れている国内ユーザーにおいては人手不足により、日本の競争優位性のために残すべきインテグラル製造と省人化を進めた自動製造の見極めが進展
- それによりメーカーはオーダーメイド型受注と自動製造ラインのターンキー提案のいずれ(あるいは双方)をターゲットにするかにより、リソースを割くべき重点領域に変化が発生

工作機械メーカーの業務提携の進展



(出所)みずほ銀行産業調査部作成

二極化する国内ユーザーニーズ変化への対応



(出所)みずほ銀行産業調査部作成

[X\(Twitter\)公式アカウント](#) [産業調査部](#)
[「みずほ産業調査」はこちら](#) [発刊レポートはこちら](#)



みずほ産業調査／78号

2025年5月30日発行

© 2025 株式会社みずほ銀行

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、弊行が信頼に足り且つ正確であると判断した情報に基づき作成されておりますが、弊行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しては、貴社ご自身の判断にてなされますよう、また必要な場合は、弁護士、会計士、税理士等にご相談のうえお取扱い下さいますようお願い申し上げます。
本資料の一部または全部を、①複写、写真複写、あるいはその他如何なる手段において複製すること、②弊行の書面による許可なくして再配布することを禁じます。

編集／発行 みずほ銀行産業調査部

東京都千代田区丸の内1-3-3 ird.info@mizuho-bk.co.jp